

せんぼく探訪 VOL.4

【弥陀三尊(みださんぞん)】

主に浄土系寺院の本堂の正面真中におまつりされている仏さまが阿弥陀如来(仏)、向って右が観音菩薩、左が勢至菩薩である。菩薩とはもともとは仏になるために修行する人のことをいったが、観音菩薩や勢至菩薩の場合は阿弥陀仏の分身として、その働きを助ける者という考えである。阿弥陀さまはなにびとと雖も区別なくお救い下されるが、阿弥陀さまが、慈悲として働かれる時には観音菩薩をつかわし、智慧として働かれる時は勢至菩薩をつかわされるのである。『浄土宗ホームページ なるほど浄土宗より』

今回は市内文化財指定の弥陀三尊に関する像を紹介しします。(次回は板碑を紹介しします)

県指定有形文化財

1. 指定名称 木造阿弥陀・薬師・勢至(もくぞうあみだ・やくし・せいし)
2. 指定年月日 昭和30年1月24日
3. 所在 西木町西明寺字堂村(大国主神社蔵)
4. 像高 阿弥陀如来 93cm
薬師如来 105.2cm
勢至菩薩 106.7cm

弥陀三尊であれば薬師ではなく観音であるはずだが、なぜこの組み合わせになったかについては不明であり、観音菩薩を京都で補修したときにすり替えられたと伝わっている。

阿弥陀如来像は松の寄木、漆箔造りの座像で衣が流麗に全体を被うように表現されている。この像の首内には字経(阿弥陀経の三分の一)が細かく巻いて納められていた。薬師如来立像は左手に薬壺を持っている。勢至菩薩立像は前二体とは時代が異なるとみられている。



木造阿弥陀如来

市指定有形文化財

1. 指定名称 青銅阿弥陀如来坐像(せいどうあみだによらいぎぞう)
2. 指定年月日 平成9年12月5日
3. 所在 角館町上新町(天寧寺境内)
4. 像高 150cm

芦名千鶴丸君の供養のため鑄造された青銅の阿弥陀如来坐像で、本堂脇に安置されている。千鶴丸君は父盛俊公3回忌の法要中、縁側の「くつぬぎ石」に転落し亡くなったという。その「くつぬぎ石」を台座石として造られたと伝わっている。

阿弥陀さまの左腰部分に 鑄師下岩瀬町住 佐藤佐次兵衛尉藤原家栄作
享保十乙巳六月十四日 の刻字がある。



青銅阿弥陀如来坐像

1. 指定名称 阿弥陀如来立像(あみだによらいりゅうぞう)
2. 指定年月日 昭和37年8月30日
3. 所在 西木町門屋上門屋(信楽寺蔵) しんぎょうじ ※画像はありません
4. 像高 99cm

本尊の阿弥陀如来像で、寺の伝えでは天竺(現在のインド)の仏師昆首羯摩(びしゅかつま)の作と伝わるというが、仏像には昆首羯摩作と銘打たれたものやそのように伝えられているものが日本にもたくさんあるようです。昆首羯摩とは「帝釈天の臣で種々の細工物を作り、建築をつかさどる天神」(岩波書店『広辞苑』)とあることから仏師は不明であるが、専門家の鑑定では地方の作の傑作で、時代は室町初期か鎌倉期まで遡るかと見られている。

昔、この仏像を背負い京都に運ぼうとしたが角館に近づくごとに重くなり本町辺で背負いきれなくなり、遂に戻るとそれが軽くなり元に帰って安置したという伝説がある。

(仙北市教育委員会 文化財課)